

覚醒刑事犯の構成は、学生一人、有職・無職四人、特に女性が八〇%を占め、少年層への浸透が心配される。不良行為少年

全体的には前年に比べ六五〇人の減少となっているが、不健全性行為が五五〇%増、家出が二二九%増、無断外泊が一六〇%増などが目立っている。

青少年問題協議会

久保田町では、青少年問題審議会及び地方青少年問題協議会設置法（昭和二十八年法律第八三号第五条の規定に基づき、昭和四十二年八月三十一日条例第一三号で、青少年問題協議会を置く。

協議会の委員

協議会議長、副議長、助役、教育委員長、思斉小・中学校長、公民館長、民生児童委員総務、部落長会長、婦人会長、母子会長、青年団代表（男女）二名、保護司代表、少年補導員二名、思斉小・中PTA会長、高校父兄会代表二名、交通安全協会代表、子供クラブ連絡会代表二名

青少年育成専門員

昭和五十七年三月二十七日教委規則第一号で、青少年の健全育成並びに非行防止を図るため久保田町青少年育成補導員を置き、青少年の非行化防止を図るため、次の業務を行う。

非行化の早期発見活動（相談業務、長欠児童生徒の調査・就学促進、被害実態等の調査）

早期補導活動（専門機関及び学校との連絡・提携、街頭補導、継続補導、家庭に対する補導連絡情報、資料等の整理、各種団体との連絡提携

三 交通・通信

(一) 交通の概況

終戦後の駅は、復員軍人や海外からの引揚者で混雑した。その後、家に落着き生活が始まると物資欠乏の中で食糧の買い出しに奔走する人で列車の中は賑わった。米は配給品で、その流通は統制されていたので、自由にならなかつた。闇米という正式のルートを経ない米の取引をする人が列車を利用するなど、鉄道の乗客はかなり多かった。特に、当時のエネルギー源といえば石炭で、貨物列車には石炭列車といわれる石炭だけを積んだ貨車も走った。

道路交通も乗用車の進歩と道路の整備拡充により、バスも大型化し交通は便利になり、朝夕の通勤バスは満員になることがよくあった。しかし、昭和末期頃になると自家用車が急速に増加し、エネルギー源は石炭から石油に代わり、炭山は閉山し昭和五十七年十一月十五日には、駅の貨物取扱廃止という結果になった。その後も自家用自動車は増え続け、一軒の家に二台、三台と保有する現状で、バスの乗客は貸切以外は僅少となり、定期路線バスは一部整理の止むなきに至り、鉄道も乗客の減少で無人駅が多くなり、久保田駅も昭和六十年一月二十日から無人駅となった。

(二) 鉄道

久保田駅の最盛期は、昭和の始めから戦前にかけて、職員の数も駅長、助役五名、職員の数七〇名という、佐賀駅のつぎに大きな駅で、付属建物として、信号所の高い建物があり、機関車の方向を変える転車台、保線区電気担当職員詰所、駅官舎があった。農産物や魚介類等を積み込み用の引込線や倉庫、日本通運の営業所もあった。駅舎の一角には売店があり、売り子がいた。駅前には旅館、飲食店、米屋、石炭屋、たばこ屋、酒屋など駅前商店街が賑わった。

鳥栖駅から西へ、長崎本線、佐世保線の電化工事が始まったのは昭和三十三年九月、昭和五十年春完成の予定で進められた。佐賀では、昭和四十八年十月二十九日、佐賀市神野町新家の高架新線敷地上の鉄入れ式場には、架線第一号のポールがそびえ立ち、池田佐賀県知事によってシャベルが打ち込まれた。県内はもとより西九州地域の主要幹線鉄道である長崎本線、佐世保線の電化は、県勢浮揚に重要な推進力となり県民生活に直結するものとして早期実現が期待され、五十一年の若楠国体開催を前にして、両線の電化は輸送力を増強し、五十年春の新佐賀高架駅の開業時点には電化の開通を期待したが、新幹線の工事の遅れやオイルショック、用地買収、

軟弱地盤等の難工事で、一年四ヵ月遅れの五十一年七月に開業した。昭和六十二年四月一日より、日本国有鉄道が民営化され、九州管内は九州旅客鉄道株式会社（JR九州）が運営している。

現在久保田駅を通過する列車の数は、一日に長崎・佐世保線が上下一二九列車（内特急六八）唐津線四六列車計一七五列車が久保田駅を通過している。しかし、自家用自動車の普及に押され、乗降客の数が減少し現在は駅員の居ない無人駅になっている。

(三) 運輸

長い間町民に親しまれた市営バスも自家用車の普及に伴い、路線整理の止むなきに至った。国道二〇三号線を走る昭和バス、同二〇七号線を走る祐徳バスの路線があるが、いずれも乗客が少ない。町内には久保田タクシーの営業所があり町民の便をはかっている。

運輸

貨物輸送については、戦後の輸送難の時代には、荷馬車が活躍し馬車組合が結成された。昭和二十六年にはオート三輪の貨車に代わり、昭和三十年には四輪車のトラックが走るようになった。町内の運送会社は、久保田運送、山三貨物、肥前運送

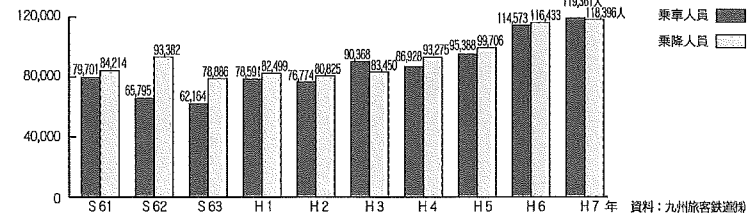


九州ロジテックカーゴ



久保田駅構内

J R乗降客数 (久保田駅)



の三社で個々に営業していたが、昭和四十七年、町内三社と牛津陸運・牛津石油・牛津倉庫の六社が協業組合佐賀板紙輸送センターを創設、保有トラックの台数も八〇台となり、全国ネットで運送業務を開始した。平成十二年九州ロジテックカーゴと社名を改め、トラックも大型化されている。

(四) 道 路

久保田町の道路は、昭和十二年には嘉瀬橋と牛津間の俗称徳万町国道（現二〇七号線）の拡幅工事が行われた。現在、町の中央を通る東部道路、（現佐賀外環状線）の県道編入により道路網も逐次整備された。

車社会の進展に伴い主交差点の混雑を防止するため、徳万交差点・久富交差点の拡幅改善をし、県立森林公園の拡張に伴う久保田みどり橋の架橋により、取り付け道路と佐賀外環状線の交差点も改善した。昭和四十五年から同五十五年にかけて施行された圃場整備事業により、農道が縦横に整備された。

- 国道二〇七号 久保田町徳万と久保田町下満 二、五九二キロメートル
- 国道四四四号 久保田町久富と久保田町下新か江 二、三九九キロメートル
- 県道佐賀外環状線 久 富と国道二〇七号線 四、二七八キロメートル
- 県道久保田停車場線 久保田宿と北田 〇、七四二キロメートル
- 町道延長 九〇、六九〇キロメートル



中副交差点

農道延長

三六、六一八キロメートル

(五) 橋 梁

久保田町は、嘉瀬川と福庄江の流れに挟まれた細長い町で、三日月町以外の佐賀市、牛津町、芦刈町との往来には橋を渡らねばならない。国道二〇七号には、嘉瀬川を渡る嘉瀬橋と福所江（境川ともいう）には境橋があり、国道四四四号の嘉瀬川には久保田橋、福所江には福所江橋が架橋され国道交通の重要な役割をはたしている。また、町の西部中央にある上新ヶ江と芦刈町下古賀を結ぶ桂秀院橋は、昔から庶民交通の要所であった。平成十三年三月に完成した「久保田みどり橋」は、「県立森林公園」に通ずる美しい橋である。森林公園にある施設、特に「みどりの森県営球場」を中心にした観光開発に大きな役割を果すことであろう。

得仏橋

嘉瀬川の改修工事で飛び地となった得仏地区への通路として、昭和三十六年十月森永組によって着工された得仏橋は、十カ月の工事を無事に終了、十月五日現地において渡り初めの式が行われた。

当日は三池代議士を初め、県河村土木部長、中原嘉瀬川改修事務所長、中島福岡地方建設局庶務課長、中尾佐賀新聞社長、その他村内多数の来賓を迎え、村田村長のハサミ入れがあり目出度く渡り初め式を終わった。
 「工事経費」

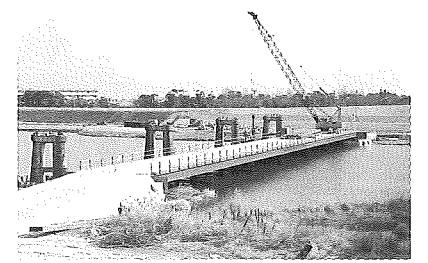
試験杭 五〇万一千円
 取付道路 五二二万三千元
 橋梁 二、八五〇万四千元
 計 三、四二二万八千元

〔経過〕

昭和三十六年十月五日着工。工事請負久保田町森永組。

橋脚コンクリート打が厳寒期であったため、強度の減退には特に注意し、また本県を襲った七月の豪雨で、地盤が軟弱の上益々軟弱となり足場が悪く工事の進捗を阻んだり、耕作道路と工事現場が幅奏したが地元との協力により、無事竣工できた。

約三〇年間にわたり久保田町民に親しまれた得仏橋は、久保田みどり橋の建設にともない役割を終わりに解体されることになった。



解体される得仏橋

久保田みどり橋

久保田町道、上新ヶ江・森林公園線が、一級河川嘉瀬川を横断する地点に建設された新しい橋で、県立森林公園内の施設「みどりの森県営球場」大芝生広場、自然池等の供用がはじまり、増加する利用者の利便性を向上させるため、西側にも駐車場を新設することとし、それと同時に県西部方面からのアクセスを強化することが必要となった。そこで、現在の橋梁（得仏橋）が幅員三.5mと狭く車の離合も不可能なうえ、歩道もなく危険であるこ

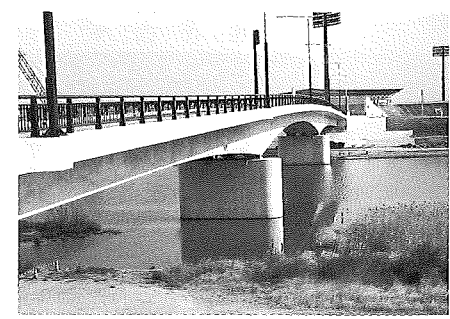
とから、公園の園路と一体となった新しい橋の建設が必要となった。

そのため、平成八年度からの新橋の建設に着手するとともに、主要地方道佐賀外環状線からの町道改良工事にも着手し、西側からの一体的なアクセスルートを整備を開始した。

平成十三年三月完成した「久保田みどり橋」は、森林公園へのアクセス橋としてはもちろん、久保田町の新しいランドマークとして多くの人に親しまれる橋梁となっている。

事業概要

- ・事業名 県立森林公園整備事業
- ・事業主体 佐賀県・久保田町・国土交通省
- ・路線名 町道上新ヶ江・森林公園線 全体計画 橋長 一八八・〇m
- ・所在地 佐賀県久保田町新田 幅員 一一・〇m（歩道三・五m車道六・〇m）
- ・全体事業費 約二億円 上部工 三径間連続PCボステン箱桁
- ・工期 平成八年度～十三年度 下部工 橋台二基 橋脚二基



久保田みどり橋

橋 梁
 福所江橋
 路 線 名 一般国道四四四号

箇所	佐賀郡久保田町大字久保田、小城郡芦刈町大字下古賀
工事施行年度	平成四年一月～平成六年三月
橋梁総工事費	二三四、五八〇、〇〇〇円
橋長	四九、七〇〇m
幅員	一〇、八〇〇m 歩道二、五〇〇m

久保田橋

路線名	主要県道 大川～鹿島線（現国道四四四号線）
箇所	佐賀郡久保田町久富、佐賀市嘉瀬町新町
工事施行年度	昭和四十一年～昭和四十四年三月
橋梁総工事費	一九七、八八五、〇〇〇円
橋長	三五八・五〇m
幅員	六・〇〇m

(六) 通信

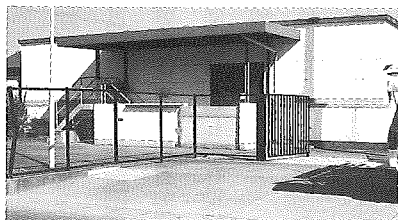
概説

NHK佐賀放送局は、昭和十六年六月十一日熊本中央放送局佐賀出張所として開局、当時はJOSP佐賀放送局と呼びラジオの放送局であった。昭和二十年には佐賀県の聴取者の数が四四、三八九件、終戦後は、娯楽的な内容や民主化に関するものが多かつた。昭和二十三年JOSP佐賀放送局として、初めてラジオの電波を発信した。

昭和二十八年テレビジョンの本放送が始まり、音だけのラジオの放送から、音と映像が同時に視聴できるテレビ放送の時代になった。昭和三十五年九月カラーテレビが本格的に放送が開始され、一躍茶の間の人気をさらった。現在では、通信衛星からの映像受信も可能になり、天気予報もかなり正確になり、世界各国の情報が直ちにキャッチできる。科学技術の進歩は目を見張るものがある。

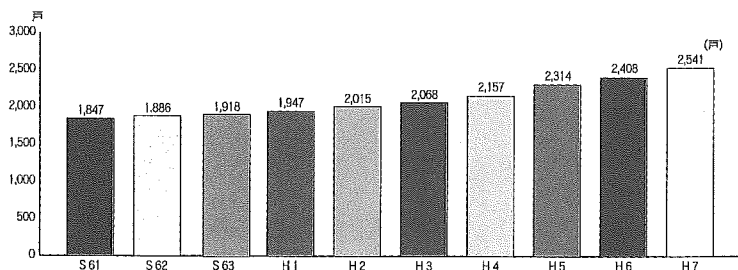
放送も民間放送の時代をむかえ、ラジオのNBC佐賀放送局、FM佐賀、STSサガテレビ、有線テレビも県内各地に放送をはじめ、また、災害に備えた防災無線放送も拡充されてきた。

電話の普及にも大きな変動があり、最近では携帯電話の爆発的な普及により、公衆電話の使用が激減している。



電話自動交換所（小路）

電話普及状況



久保田橋



福所江橋

久保田郵便局

沿革

郵便局の開局当時は、土地の先覚者といわれる人が関わっている。久保田郵便局の初代局長は、久保田村十五代村長市川 潔。大立野郵便局（現久保田久富郵便局）は、土地の有力者で消防の小頭等をつとめた塚原亀吉である。久保田郵便局はその後、国道二〇七号線添いの徳方を転々とし現在地に、大立野郵便局は久富の国道四四号線添いの現在地に、近代的な郵便局を建設した。

歴代郵便局長

初代	市川 潔	明治三十五年	〳大正八年十二月十九日
二代	永松 清	大正八年十二月十九日	〳昭和六年三月十八日
三代	永松 千輔	昭和六年三月十八日	〳昭和二十六年六月二十六日
四代	小笠原 三郎	昭和二十六年十二月二十八日	〳昭和二十九年十二月二十日
五代	副島 達雄	昭和二十九年十二月二十日	〳昭和三十年五月十日
六代	三好 元一	昭和三十年五月十日	〳昭和二十九年十月二十九日
七代	松 永 誠次郎	昭和四十年一月十九日	〳昭和五十四年六月三十日
八代	江頭 謙造	昭和五十四年七月十六日	〳昭和五十六年八月十七日
九代	大坪 義夫	昭和五十六年	〳昭和六十三年六月二十二日

十代 堤 保徳 昭和六十三年六月二十三日 〳現在

郵便局の歩み

明治三十五年（一九〇二）二月二十五日、久保田村大字徳万二五〇番地で開局。同年三月一日、郵便・貯金業務開始。

- 明治三十九年（一九〇六）六月 一日、久保田村大字徳万二二二番地に移転。
- 明治四十四年（一九一〇）一月 一日、電信電報業務開始。
- 明治四十五年（一九一〇）一月二十六日、大字徳万一八一番地に局所移転。
- 大正四年（一九一五）十一月 一日、電話業務開始。
- 大正五年（一九一六）十月 一日、保険業務開始。
- 大正九年（一九二〇）三月 七日、大字徳万三二〇番地に局所移転。
- 大正十年（一九二二）二月二十一日、電話交換業務開始。
- 大正十五年（一九二六）十月 一日、年金業務開始。
- 昭和二十七年（一九五二）四月 一日、大字徳万三〇九番地の二に移転。（国営）
- 昭和三十七年（一九六二）七月 三十日、大字徳万一六四八番地の二に移転。
- 昭和四十七年（一九七二）十二月十三日、電話自動改式。（改式時の電話加入数、一



久保田郵便局

昭和四十九年（一九七四）三月 十七日、郵便物の日曜配達廃止。
 昭和五十六年（一九八一）五月 十一日、大字徳万一六五〇番地の一に移転。
 昭和五十八年（一九八三）六月二十二日、電報配達業務廃止。
 昭和五十九年（一九八四）二月 二十日、為替貯金窓口端末機の導入。
 昭和六十年（一九八五）九月 十七日、保険年金窓口端末機の導入。
 昭和六十一年（一九八六）十二月 一日、郵便貯金自動支払機の導入。
 平成二年（一九九〇）七月 一日、嘉瀬地区の配達は、佐賀局の業務となる。
 （久保田地区のみ配達）

久保田久富郵便局

歴代郵便局長

初代	塚原 亀吉	大正五年十月十一日	昭和九年三月二日
二代	塚原 憲一	昭和九年三月三日	昭和十九年三月二十二日
三代	金田 保	昭和十九年三月二十三日	昭和五十二年六月三十日
四代	金田 卓	昭和五十二年九月二十二日	現在（昭和五十二年七月一日）九月二十一日迄久保田郵便局長不在のため兼務）



久保田 久富郵便局

郵便局の歩み

大正五年（一九一六）十月十一日、久保田村大字新田一〇〇番地に開局、敷地一〇坪、建坪六坪、開局と同時に為替貯金事業（外国為替を除く）、保険事業（集金事務を除く）、郵便事業（集配事務を除く）を開業する。
 大正十五年（一九二六）十月一日、郵便年金事業（集金事業を除く）を開業する。
 昭和十四年（一九三九）三月八日、電信業務（外国又は、欧文電報を除く）、電話業務（交換事務を除く）を開業する。
 昭和二十六年（一九五二）八月二十一日、電話交換事務開始。電報配達事務開始、配達区域久保田村大字新田字（福富・大立野・東横江・西横江）久保田村大字久富字（久富・搦東・搦西・三丁樋・下恒安）久保田村大字徳万字（下金丸）久保田村大字久保田字（永里・下新ヶ江）嘉瀬村大字十五字（新村・新屋敷・新村渡）

昭和三十二年（一九五七）四月一日、久保田村大字新田七五八番地に局舎を移転新築。敷地五二坪。一階一五・五坪、二階一一・二坪。
 昭和四十一年（一九六六）二月十一日、嘉瀬町大字十五字（新村・新屋敷・新村渡）を佐賀電報局から配達を実施。
 昭和五十七年（一九八二）七月五日、局舎新築移転、大字久富四三八の二番地、局名を久保田久富郵便局に改称。
 （現在に至る）